



CIOのためのBSM (ビジネス支出管理)ガイド

次に知っておくべきソフトウェア
カテゴリーのすべて

BSMを使えば、企業は以下のことができます。

- サイロを横断した支出の把握
- 肥大化した予算の削減と、資金の増加
- パートナーやサードパーティのリスク低減
- AI活用した同業他社とのベンチマーク



目次

1. いま導入すべきBSM	03
2. シナジーから得られる成功	07
3. BSMで成功している企業	08
4. 今こそBSMチャンピオンになる時	10

いま導入すべきBSM

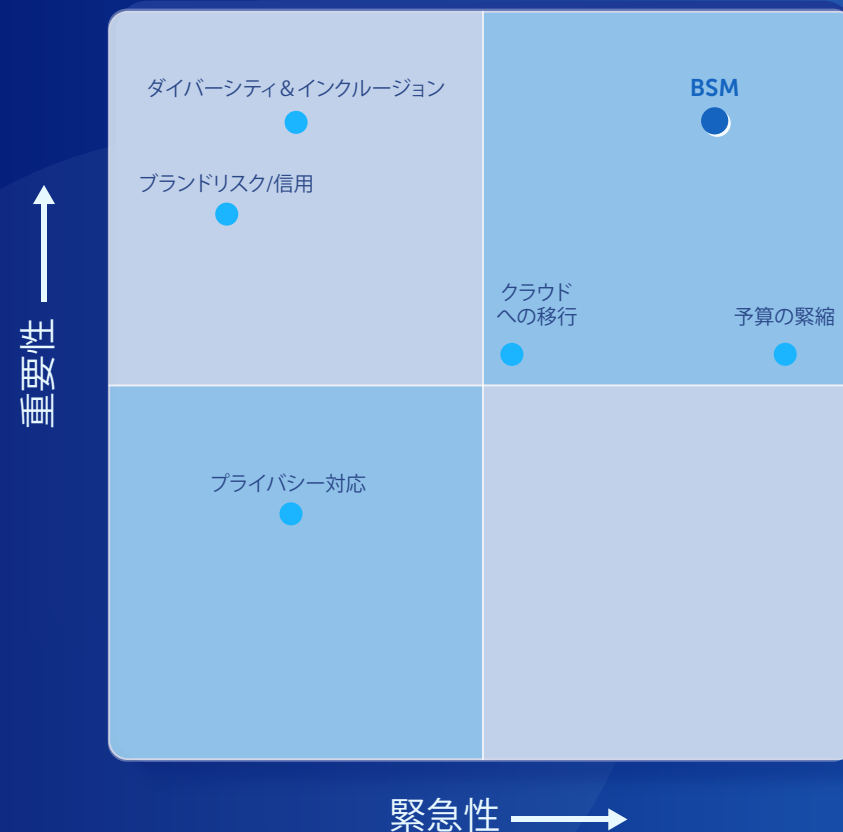
どのプロジェクトが重要で緊急に取り組むべきかをCIOが決定する段階になると、「リスクをはらむ技術や実績のない技術をどうすれば避けられるか」という疑問が浮上してきます。

今日、予算は流動的で、経営の先行きは不透明です。昨日まで長いあいだ計画していた投資でも、今日になれば意味のないものになります。今、支出とリスクを抑える必要性が高まっています。そして、先ほどの疑問の答えをCIOは容易に見つけることができません。答えを見つけるには、組織が何に資金を使っているかを把握しなければならないからです。事業部門や部署がサイロ化している中で、多くのCIOが支出を把握できていません。

多くの場合、企業がどのようにテクノロジーやサービスを購入しているかという財務的な話を紐解くには、調査が必要になります。これは、リスクプロファイルについても同様です。重要事項は、何十もの基幹システムやワークフロー、何千社ものサプライヤーのいたるところに断片化して存在しています。データの中には、切り捨てられるのを待つ無駄なライセンスやシェルフウェアや、セキュリティ面で懸念があり注意や警告を受けるのを待つパートナーが潜んでいます。

クラウドへの移行にまい進する世の中で、何が起きているかを理解し、そのすべてを達成するために、BSM (Business Spend Management、ビジネス支出管理)はあります。BSMを使えば、自社の支出を照らし出して管理するだけでなく、同業他社の支出パターンを垣間見することもできます。これにより、CIOは企業の舵取りに必要なデータを手にすることができ、何にリスクがあり、何にリスクがないかを理解できるようになります。

企業の取り組みの重要性と緊急性



ビジネス支出管理(BSM)とは何か

BSMは、購買、請求書の処理、経費、支払など、従業員による支出を管理するための包括的なアプローチであり、ソフトウェアカテゴリーです。BSMで扱うものには、支出の開始や管理、最適化のための関連プロセスも含まれます。

BSMが必要なのは、データが多く、システムにまたがって存在しているからです。企業の支出方法において、効率化を考慮して設計されているものは実質的にありません。そして、世界中のIT組織が予算削減を要求され、予算をどこから捻出するかを思案しています。そのような状況で、データドリブンな答えを持つことは、非常に有益となります。

このようなプロセスを管理するために、BSMソフトウェアが存在します。次のスライドでは、これまでのビジネスの世界の組織化に貢献してきた、3文字のアルファベットで呼ばれる複数のシステムについて振り返ります。

BSMの全体像



BSMの誕生

データが断片化することで生じるビジネスの課題は、いつも柔軟性と複雑性のバランスでした。すべてにおいてベストインブリードを購入していると、多数のシステムと無数のコネクターをかかえ、データを断片化させることになります。だからといって、モノリシック型ERPのような大きなシステムを1つ購入してシンプルな構成にしても、それでは、それぞれの処理を非常にうまくこなすベストインブリードの柔軟性が犠牲になります。

ほとんどの企業にとって理想的な状態は、その中間のどこかにあります。過去30年間の技術進歩の結果、ほとんどの企業はそこに落ち着きました。

1980年代

1990年代

2000年代

2010年代

2020年代

ERP: 1990年代

ERPは、関連するビジネスプロセスを統合した初の例でした。ERPの出現は大きな前進とされたものの、導入に緊急性はないと考えられていましたが、2000年問題を契機に急激な大量導入が行われました。

CRM: 2000年代

CRMは、フロントオフィス業務をシステム化し、ERPのギャップに対処するために登場しました。Siebel Systemsなどの企業は、まず、連絡先データベースのエコシステムを、本格的な顧客記録のデータソースとして利用し始めました。CRMは次に、財務報告のためにERPと連携しました。

HCM: 2010年代

CRMに続いてHCMが登場し、人事のポイントソリューションを集約して従業員記録の単一のデータソースにしました。HCMもERPと連携し、各事業部門が独自の信頼できるデータソースを持つことで、柔軟性と複雑性の適切なバランスを得られることが明らかになりました。

BSM: 2020年代

BSMは、他のシステムにはできない最後のギャップを埋めるために登場しました。それは、サプライヤーの一次記録のデータソースです。それまでのシステムと同じように、BSMは、とても重要な信頼できる新たなデータソースを財務にもたらしめます。ERPと2000年問題の時と同様に、BSMの重要性はパンデミックの間に爆発的に上昇し、バラバラに行われる手作業のプロセスの存在が露呈されることになりました。支出を抑え、サードパーティのリスクを管理し、流動性を高めるために、企業はこのデータを理解し、デジタル化しなければなりません。

BSMにおける成功とは

しかし、他のシステムとは異なり、BSMにはBSMにしかできないことがあります。それは、検証可能なROIを迅速に生み出すことです。企業の財務管理の拠点としてBSMが機能することで、財務の非効率性が速やかに一掃されます。

企業はBSMを利用して、より健全な財務状態で成長できるようになります。

- 支出と流動性の把握と統制の実現
- サードパーティのリスクを軽減
- 支出の優先度の変化への迅速な対応
- 徹底した節減
- DXの加速
- 財務データの組織的サイロを排除

支出の認識と管理は、ほんの始まりに過ぎません。BSMに移行する企業がますます増え、そのデータが共有されるようになることで、企業間や業界内のデータをベンチマークにした評価ができるようになります。これにより、以前は解決できなかった疑問を解消できるようになります。





シナジーから得られる成功

BSMをポイントソリューションの集合体としてではなく、1つのカテゴリーとしている理由の1つに、すべてのビジネスプロセスのデータを共有することで得られる価値があります。CRMによって、マーケティング、サポート、製品チームが顧客データを利用できるようになるのと同様に、BSMによってすべての人が、先見性を高める明確な支出データを利用できるようになります。BSMは、購買、買掛金(AP)、資金管理、調達、法務、人事、IT、そしてあらゆる事業部門のエンドユーザーに共有されます。そのため、全員が資金の流れを見て理解し、資金が流れるべきでない場所を特定できるようになります。

これは、複数のポイントソリューションを利用する場合と大きく異なる点です。それぞれが異なる方向に進化するポイントソリューションは連携が必要になります。また、モノリシック型ERPとも対照的です。モノリシック型ERPは、ユーザビリティに問題があれば、回避策やシャドーITを生み出すことになります。BSMを導入することで、企業は目的に特化したプラットフォームやツールを利用し理解を深めて財務の最適化を行えるようになるだけでなく、ベンダーのエコシステムを維持するためにデータをリポジトリに一元化できるようにもなります。

そしてBSMの一番の利点は、AIを活用したコミュニティインサイトを利用できることです。Coupaは10年以上にわたり、企業の支出方法に関するデータを、匿名化と正規化を行ったうえで安全に収集してきました。Coupaのプラットフォーム上にある5兆ドル近い支出データを利用し、類似企業とのベンチマーク評価を行うことで、企業は、リスク軽減、効率化、利益拡大のための意思決定を、AIを活用してよりスマートに行えるようになります。その他には、信頼できる検証された評価に基づいてサプライヤーを探すこともできます。これは、コミュニティインテリジェンスから得られるインサイトのほんの一部に過ぎません。

中小企業から大企業にいたるまで、BSMとコミュニティインサイトがあれば、無駄を省き、余った予算を検知(そして、節減に回すか、他の目的で使用するかを選択)できるようになります。今日の環境では、このような節減は極めて重要であり、時として成功と失敗の分かれ目となります。

BSMで 成功している 企業

Coupa BSMの導入において、一貫して見られるのは、労力の低減、インサイトの向上、測定可能なコストの削減です。

BOWERY

Bowery Farming

- すべてのプロセスをひとつのP2Pプラットフォームに一元化
- 支払いの90%をバーチャルで処理
- 1,200件の請求書を1人の担当者で処理し、毎月30件の新規サプライヤーを追加
- 1年に満たない期間で、Coupaのサブスクリプション費用に対してプラスのROIを生み出し、支払(AP)担当者の追加採用が不要に

formlabs

Formlabs

- 7つの異なるポイントソリューションとシステムで行っていた処理が1か所に統合
- Coupaを介した支出総額は5,570万ドル



Reddit

- 発注書、請求書、ベンダーを明細のアイテムレベルで完全に可視化
- SOX法の遵守を達成して、監査プロセスを効率化し、IPOの準備を確実に実施
- 決算時間を40%短縮し、現在では6日以内に完了
- 3四半期で総額600万ドルの節減を達成



Leukemia & Lymphoma Society (白血病リンパ腫協会)

- サプライヤー情報管理(SIM)ワークフローの効率化により、毎月400社のサプライヤーを登録
- Coupaの直感的なインターフェイスにより、フェーズ1での目標の定着率を100%達成
- 1年間で240万ドルを節減



Theravance Biopharma

- リアルタイムのレポートニングにより、P2Pにおける100%のコンプライアンスを達成
- 請求書承認のライフサイクルを73%短縮、現在では速さが4倍
- 6か月間で従業員工数を310万ドル以上節減

今こそBSMチャンピオンになる時

BSMは、企業が1年後にはその存在を感謝することになるソフトウェアカテゴリーです。同じことが言えるカテゴリーは、ERP、CRM、HCMなどが挙げられますが、それほど多くはありません。また、BSMによって財務効率が向上すれば、例えばERPの統合戦略を遂行するために、他のプロジェクトを相殺できます。

同時に、どこかで節減は行わなければなりません。それも、効率的に決めたいものです。テクノロジー予算の大幅な削減を求められるCIOは、BSMを利用することで、運用コストを最小限に抑えながら予算を削減する方法を、データに基づいて理解できます。

BSMは、リスクを取らずにテクノロジーに投資できる環境、大きな賭けが大きなリスクである必要のない環境を作り出します。財務データやリスクデータなどを明確に可視化できれば、CIOは企業の舵取りを支えることができます。憶測ではなく数値に基づいてCIOは行動できるようになります。そして、そのような力を持つCIOが、今やかつてないほど必要とされているのです。

Coupaについて

Coupaは、BSM (Business Spend Management、ビジネス支出管理)のトラステッドリーダーです。企業があらゆる資金を有効活用できるよう支援しています。CoupaのAIを搭載したプラットフォームは、可視化と管理を可能にし、リアルタイムでインサイトを提供することで、あらゆる規模の企業におけるオペレーショナルエクセレンスを推進します。

詳細は、coupa.co.jp をご覧にください。また、[LinkedIn](#) と [X \(Twitter\)](#) でもCoupaをフォローできます。

BSMで実現できるスマートな支出について詳しくは[COUPA.CO.JP](https://coupa.co.jp)をご覧ください。

